

第 1 . 人 口 動 態

1 人口動態調査について

人口動態調査は、国勢調査と並ぶ主要な統計であり、統計法に基づく指定統計である。

調査は人口動態調査令及び施行細則の規定により行っているが、戸籍法による出生、死亡、婚姻及び離婚の届出、死産の届出に関する規程による届出から、市町村において1件ごとに調査票を作成し保健所、県を經由し厚生労働省大臣官房統計情報部において収集・集計される。さらに千葉県において県分の結果表を作成する。

なお、調査票の分類は、出生・死亡・死産は住所地で、婚姻は夫の住所地、離婚は別居する前の住所地で行っている。

結果表における用語の説明及び比率の算出は次のとおりである。

早期新生児死亡	生後 1 週未満の死亡
新生児死亡	生後 4 週未満の死亡
乳児死亡	生後 1 年未満の死亡
周産期死亡	妊娠満 22 週以後の死産と早期新生児死亡

出生・死亡・婚姻・離婚率 = 年間の事件数 / 人口 × 1,000

死産率 = 年間の事件数 / 年間の出産数 (出生数 + 死産数) × 1,000

周産期死亡率・妊娠満 22 週以後の死産率 =
年間の事件数 / 年間の出産数 (出生数 + 妊娠満 22 週以後の死産数) × 1,000

乳児死亡・新生児死亡率・早期新生児死亡率 = 年間の事件数 / 年間の出生数 × 1,000

死因別死亡率 = 年間の死因別死亡数 / 人口 × 100,000

合計特殊出生率 = 母の年齢別出生数 / 年齢別女子人口 15 歳から 49 歳までの合計

率の算出 県全体の率は、厚生労働省大臣官房統計情報部の公表数値とした。
市町村等の率は、平成 12 年国勢調査の総人口に基づき算出した。

2 概 要

(1) 出 生

出生率の推移は図 1 のとおり昭和 22 年～ 24 年の第 1 次ベビーブームをピークとして以後下降線をたどりつづけ、昭和 36 年を底としたが、その後は徐々に上昇を続け、昭和 46 年～ 48 年には戦後第 2 のベビーブームとなった。

しかしながら昭和 49 年以降、出生数は減少傾向にあり、昭和 55 年以降の出生率は、ひのえうまの昭和 41 年の 14.1 の値をも下回っている。平成 3 年からは増減を繰り返しており、平成 14 年は 9.2 となっている。

また、1 人の女性が一生の間に生む平均子ども数をあらかず合計特殊出生率は、昭和 51 年に 2.00 を下回ってから一時的な上昇はあるものの低下を続け、平成 14 年は 1.24 となっている。(図 2)

これらの傾向は、ほぼ全国的な傾向と一致しており、首都圏に人口の集中が始まる昭和 30 年代後半から、千葉県の出生率及び合計特殊出生率は全国を上回っていたが、昭和 60 年以降

は表 1 のとおり全国より低い率となっている。

また、出生順位別の出生割合の年次推移を表 2 でみると、第 3 子以上の割合が、昭和 40 年には全体の 14.8 % を占めていたが、昭和 51 年には 12.4 % にまで低下した。52 年以降増加傾向を示し、平成元年・2 年の 16.9 % にまで増加したが、平成 3 年以降は減少に転じ、平成 14 年は 12.3 % となっている。

表 3 の母の年齢階級別出生率をみると、13 年に比べ 25 ~ 29 歳代で出生率が若干低くなったが、他の年齢階級では増加している。

表 4 及び図 3 は保健所別の出生率である。

図 1 . 出生率の年次別推移(人口千対)

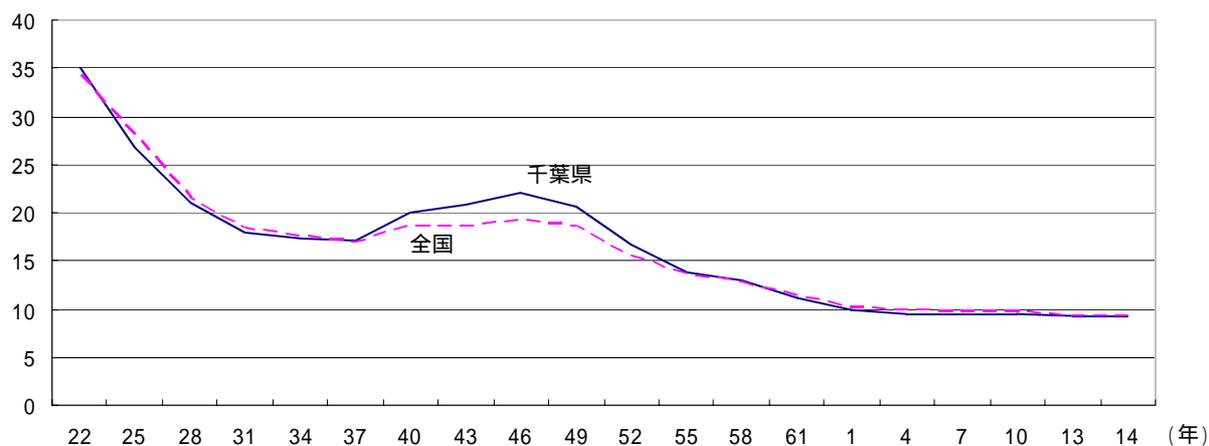


図 2 . 合計特殊出生率の年次別推移

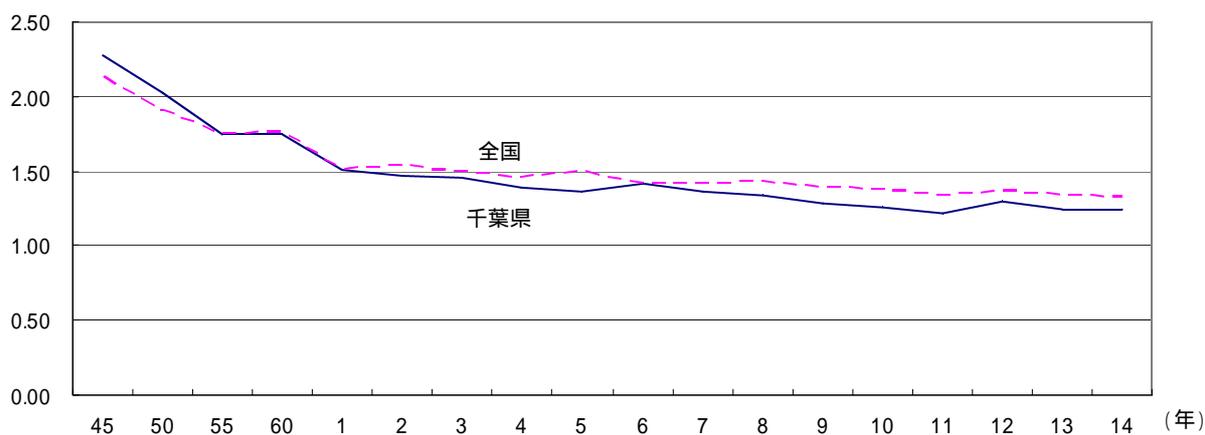


表1 出生数・出生率・合計特殊出生率の年次推移

年次	出生数		出生率(人口千対)		合計特殊出生率	
	全国	千葉県	全国	千葉県	全国	千葉県
昭和40年	1,823,697	54,170	18.6	20.0	2.14	2.31
45	1,934,239	72,481	18.8	21.6	2.13	2.28
50	1,901,440	77,416	17.1	18.7	1.91	2.03
51	1,832,617	75,601	16.3	17.8	1.85	1.92
52	1,755,100	72,704	15.5	16.6	1.80	1.86
53	1,708,643	72,037	14.9	16.0	1.79	1.86
54	1,642,580	70,499	14.2	15.3	1.77	1.83
55	1,576,889	65,554	13.6	13.9	1.75	1.74
56	1,529,455	66,753	13.0	13.8	1.74	1.79
57	1,515,392	65,492	12.8	13.3	1.77	1.80
58	1,508,687	64,288	12.7	12.9	1.80	1.82
59	1,489,780	63,570	12.5	12.6	1.81	1.84
60	1,431,577	60,719	11.9	11.7	1.76	1.75
61	1,382,946	57,783	11.4	11.1	1.72	1.67
62	1,346,658	57,256	11.1	10.8	1.69	1.65
63	1,314,006	56,462	10.8	10.5	1.66	1.61
平成元年	1,246,802	54,086	10.2	9.9	1.57	1.51
2	1,221,585	53,356	10.0	9.7	1.54	1.47
3	1,223,245	54,187	9.9	9.7	1.53	1.46
4	1,208,989	53,128	9.8	9.4	1.50	1.39
5	1,188,282	53,352	9.6	9.4	1.46	1.36
6	1,238,328	56,667	10.0	9.9	1.50	1.41
7	1,187,064	54,388	9.6	9.5	1.42	1.36
8	1,206,555	55,415	9.7	9.6	1.43	1.33
9	1,191,665	54,574	9.5	9.4	1.39	1.28
10	1,203,147	54,961	9.6	9.4	1.38	1.26
11	1,177,669	54,005	9.4	9.2	1.34	1.22
12	1,190,547	55,318	9.5	9.4	1.36	1.30
13	1,170,662	54,511	9.3	9.2	1.33	1.24
14	1,153,855	54,607	9.2	9.2	1.32	1.24

表2 出生順位別の出生数割合(百分率)の年次推移

年次	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子以上
昭和40年	47.1	38.1	10.9	2.6	1.3
45	45.5	40.4	11.6	1.8	0.7
50	45.7	41.8	10.5	1.5	0.5
51	44.7	42.9	10.5	1.4	0.5
52	43.1	43.9	11.1	1.4	0.5
53	42.4	44.1	11.7	1.3	0.5
54	42.3	43.7	12.1	1.4	0.5
55	43.2	42.6	12.3	1.4	0.5
56	43.6	41.7	12.7	1.5	0.5
57	43.4	41.2	13.2	1.7	0.5
58	43.2	41.3	13.3	1.7	0.5
59	43.3	40.8	13.6	1.8	0.5
60	42.1	41.3	14.3	1.8	0.5
61	42.8	40.4	14.3	1.9	0.6
62	43.2	40.0	14.4	1.9	0.5
63	43.2	39.6	14.6	2.1	0.5
平成元年	44.2	38.9	14.4	2.0	0.5
2	45.1	38.0	14.3	2.1	0.5
3	47.0	37.2	13.3	2.0	0.5
4	48.3	36.9	12.4	2.0	0.5
5	49.2	36.4	12.1	1.9	0.5
6	50.1	36.1	11.5	1.9	0.5
7	50.0	36.6	11.1	1.9	0.5
8	49.5	37.3	10.9	1.8	0.5
9	49.7	37.2	10.9	1.7	0.5
10	50.1	37.1	10.6	1.7	0.5
11	51.2	36.5	10.1	1.6	0.5
12	50.9	36.4	10.5	1.7	0.5
13	50.9	36.8	10.1	1.8	0.5
14	51.2	36.5	10.1	1.7	0.5

表3 母の年齢階級別出生率の推移

(女子人口千対)

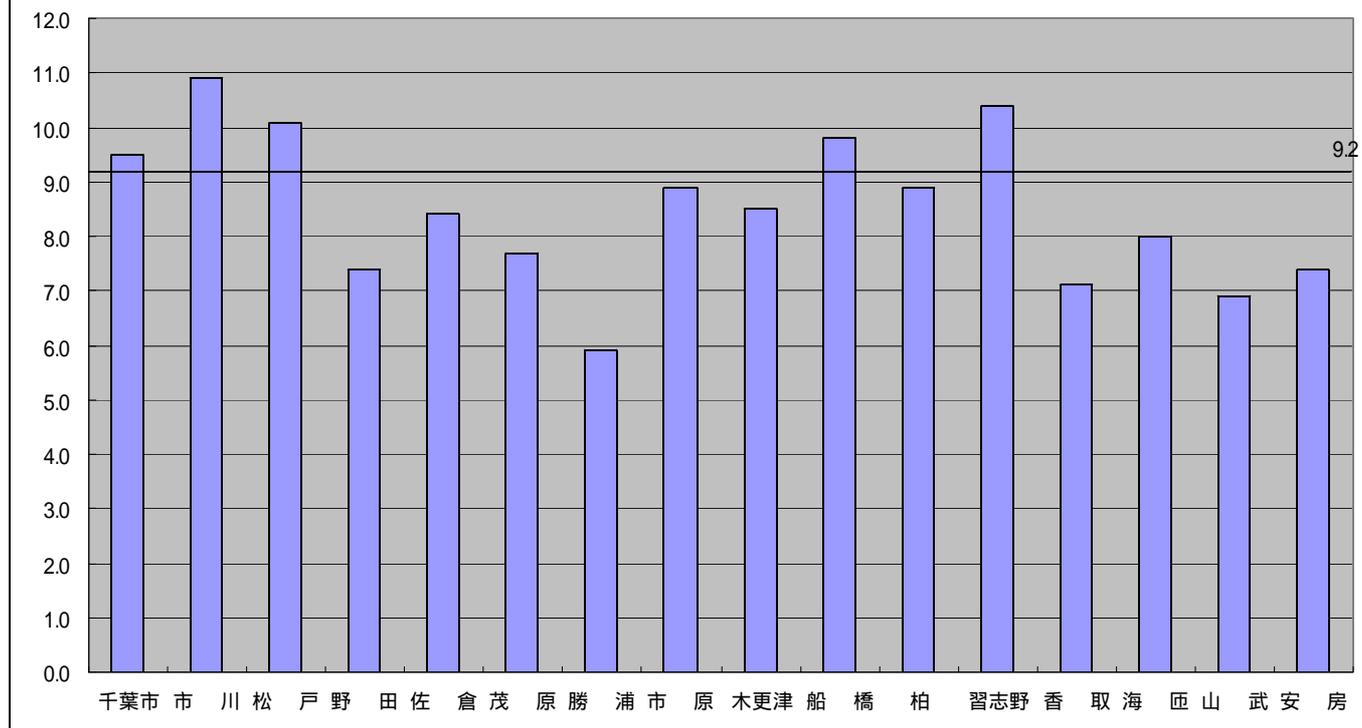
年次 母の年齢	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成13年	平成14年
15～19歳	4.48	3.88	3.99	3.51	3.14	5.21	5.58	6.11
20～24歳	110.86	74.68	59.13	40.69	35.33	32.98	32.59	33.53
25～29歳	193.69	176.40	174.21	128.11	103.45	88.56	81.78	78.88
30～34歳	74.76	75.75	89.35	93.66	93.33	91.09	87.45	85.18
35～39歳	17.16	13.72	18.79	22.13	27.36	32.78	32.02	34.11
40～44歳	2.50	1.77	1.86	2.39	2.90	3.96	4.24	4.51
45～49歳	0.05	0.04	0.06	0.04	0.08	0.11	0.10	0.12
50～54歳	0.01	-	-	-	-	-	-	-

率算出に用いた年齢別人口は、平成14年4月1日現在「千葉県年齢別人口」である

表4 年次別保健所別出生率(人口千対)

保健所	55年	60年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
総数	13.8	11.8	9.3	9.8	9.4	9.5	9.3	9.4	9.2	9.4	9.2	9.2
千葉市	14.3	12.0	9.3	9.9	9.4	9.8	9.4	9.7	9.5	9.6	9.4	9.5
市川	16.8	14.3	11.4	11.8	11.1	11.2	10.9	10.8	10.7	11.1	11.1	10.9
松戸	17.0	13.9	10.8	11.2	10.8	11.1	10.6	10.5	10.6	10.7	10.6	10.1
野田	12.6	10.3	8.5	8.7	8.2	8.4	8.1	8.0	7.7	7.7	8.2	7.4
佐倉	13.2	10.9	8.6	9.3	8.7	9.1	8.8	8.5	8.5	8.5	8.3	8.4
佐原	12.4	11.1	8.1	8.6	8.2	7.9	・	・	・	・	・	・
銚子	12.0	11.7	8.9	9.3	8.9	8.6	・	・	・	・	・	・
八日市場	11.2	11.6	8.1	9.1	8.5	8.4	・	・	・	・	・	・
東金	10.4	11.1	9.0	9.4	9.3	8.7	・	・	・	・	・	・
茂原	10.1	10.2	8.2	8.5	8.6	8.6	8.3	8.1	7.8	7.8	7.6	7.7
勝浦	9.6	9.5	6.4	7.6	6.7	7.2	6.5	6.7	6.9	6.8	6.2	5.9
市原	14.3	12.6	9.8	9.8	9.6	9.5	9.60	9.2	8.9	9.4	8.9	8.9
木更津	12.9	11.6	9.4	9.6	9.1	9.1	8.9	8.9	8.5	9.1	8.6	8.5
館山	10.7	8.9	7.4	7.8	7.4	7.4	・	・	・	・	・	・
鴨川	9.5	10.2	8.1	7.9	7.9	7.4	・	・	・	・	・	・
船橋	14.2	11.3	9.0	9.9	9.6	9.9	9.9	9.8	9.6	10.1	9.8	9.8
松尾	11.1	11.4	8.4	9.2	9.0	9.0	・	・	・	・	・	・
柏	13.6	11.0	8.7	9.3	9.0	8.9	9.1	9.3	9.0	9.0	8.9	8.9
習志野	14.5	11.6	9.4	9.7	9.7	9.7	9.7	10.4	10.0	10.2	10.2	10.4
香取	・	・	・	・	・	・	8.10	7.7	7.5	7.5	7.3	7.1
海匝	・	・	・	・	・	・	8.3	8.3	7.6	8.1	8.0	8.0
山武	・	・	・	・	・	・	8.7	8.4	7.7	7.7	7.7	6.9
安房	・	・	・	・	・	・	7.1	7.1	7.1	6.9	6.6	7.4
全国	13.6	11.9	9.8	10.0	9.6	9.7	9.5	9.6	9.4	9.5	9.3	9.2

図3 保健所別出生率(人口千対)



(2) 死 亡

平成 14 年の死亡数は 39,748 人で、昨年の 37,810 人より 1,938 人増加し、死亡率は 6.7 で前年の 6.4 を上回った。表 5 は保健所別の死亡率の年次推移である。

千葉県は、昭和 40 年までは全国の死亡率を上回っていたが、昭和 40 年代前半に全国の死亡率を下回るようになり、14 年は全国 7.8 に比べ 1.1 下回っており、全国第 4 位の低率県となっている。死因順位は表 6 のとおり悪性新生物が第 1 位、第 2 位心疾患、第 3 位脳血管疾患で昨年と同様である。

なお、これら三大成人病による死亡数は、本年 24,249 人となり、表 7 のとおり全死亡の 61.0 % を占めている。

表5 年次別保健所別死亡率（人口千対）

保健所	55年	60年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
総数	4.9	4.8	5.6	5.7	6.0	5.9	6.0	6.2	6.5	6.3	6.4	6.7
千葉市	3.6	3.8	4.7	4.8	5.1	5.0	5.2	5.3	5.5	5.4	5.5	5.9
市川	3.8	3.8	4.4	4.4	4.7	4.5	4.4	4.8	4.9	4.7	4.6	4.9
松戸	3.2	3.6	4.3	4.4	4.5	4.8	5.0	5.1	5.3	5.1	5.4	5.7
野田	5.5	4.7	5.7	6.1	6.0	6.1	6.1	6.5	7.0	6.8	6.6	7.1
佐倉	5.1	4.9	5.2	5.0	5.2	5.3	5.2	5.7	5.8	5.7	5.9	6.0
銚子	7.4	8.2	8.7	9.4	9.6	9.2	・	・	・	・	・	・
八日市場	8.1	7.8	9.2	9.6	9.9	9.5	・	・	・	・	・	・
東金	9.5	8.3	10.4	10.4	10.6	10.1	・	・	・	・	・	・
茂原	8.4	8.1	7.3	7.5	7.7	7.5	・	・	・	・	・	・
勝浦	7.5	7.3	7.6	7.5	8.3	7.6	8.2	8.2	8.7	8.4	8.6	8.8
市原	10.9	9.4	11.2	11.1	11.8	10.4	10.8	12.0	12.8	11.3	10.9	12.8
木更津	4.7	4.6	5.3	5.4	5.6	5.5	5.7	6.0	6.2	6.1	6.5	6.6
館山	6.2	6.1	6.8	7.0	7.3	7.4	7.3	7.4	7.8	7.6	7.7	7.9
船橋	9.3	9.6	11.5	11.3	11.9	11.5	・	・	・	・	・	・
柏	9.4	9.4	10.3	10.5	11.2	10.9	・	・	・	・	・	・
習志野	3.5	3.6	4.6	4.7	4.9	4.9	4.9	5.2	5.5	5.5	5.6	5.6
香取	8.4	9.0	8.5	8.8	9.3	8.7	・	・	・	・	・	・
海浜幕張	3.6	3.7	4.5	4.6	4.9	5.0	5.1	5.3	5.7	5.4	5.4	5.7
山武	3.3	3.4	4.4	4.6	4.8	4.8	4.8	5.2	5.3	5.2	5.2	5.4
安房	・	・	・	・	・	・	9.3	9.8	10.1	10.2	9.8	10.4
武安房	・	・	・	・	・	・	10.4	10.3	11.2	10.4	10.2	10.5
房	・	・	・	・	・	・	8.2	8.3	9.0	8.5	9.0	9.1
全国	6.2	6.3	7.1	7.1	7.4	7.2	7.3	7.5	7.8	7.7	7.7	7.8

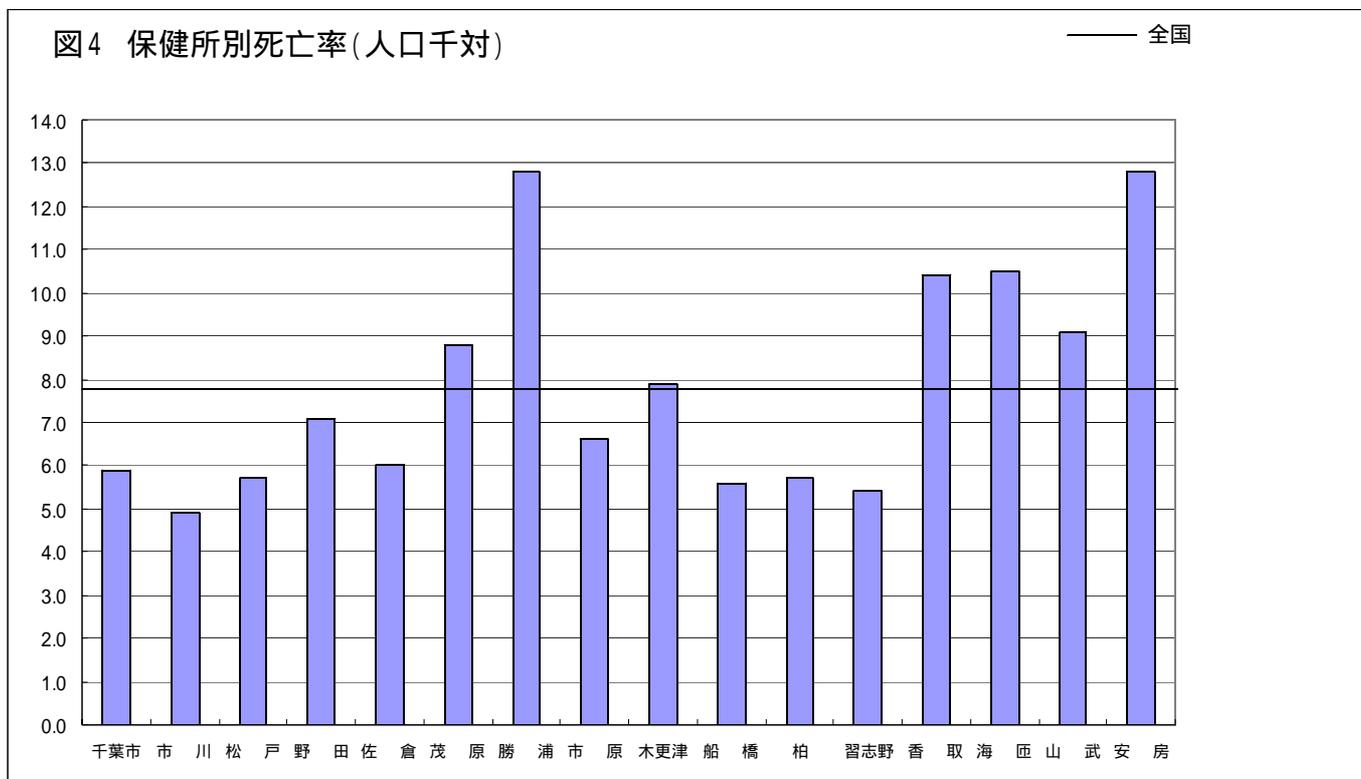


表6 主要死因別死亡数及び死亡率

(率は人口10万対)

死 因	平成14年度						平成13年度	
	総 数		男		女		総 数	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因	39,748	662.4	22,071	733.0	17,677	591.2	37,810	640.1
1 悪性新生物	12,503	208.3	7,732	256.8	4,771	159.6	12,016	203.4
2 心 疾 患	6,530	108.8	3,284	109.1	3,246	108.6	6,135	103.9
3 脳血管疾患	5,216	86.9	2,559	85.0	2,657	88.9	5,048	85.5
4 肺 炎	3,489	58.1	1,870	62.1	1,619	54.1	3,249	55.0
5 不慮の事故	1,488	24.8	989	32.8	499	16.4	1,480	25.1
6 自 殺	1,212	20.2	876	29.1	336	11.2	1,160	19.6
7 老 衰	1,069	17.8	285	9.4	784	26.2	916	15.5
8 腎 不 全	665	11.1	341	11.3	324	10.8	549	9.3
9 肝 疾 患	604	10.1	409	13.6	195	6.5	615	10.4
10 糖 尿 病	550	9.2	296	9.8	254	8.5	521	8.8

図5 . 主な死因の年次推移

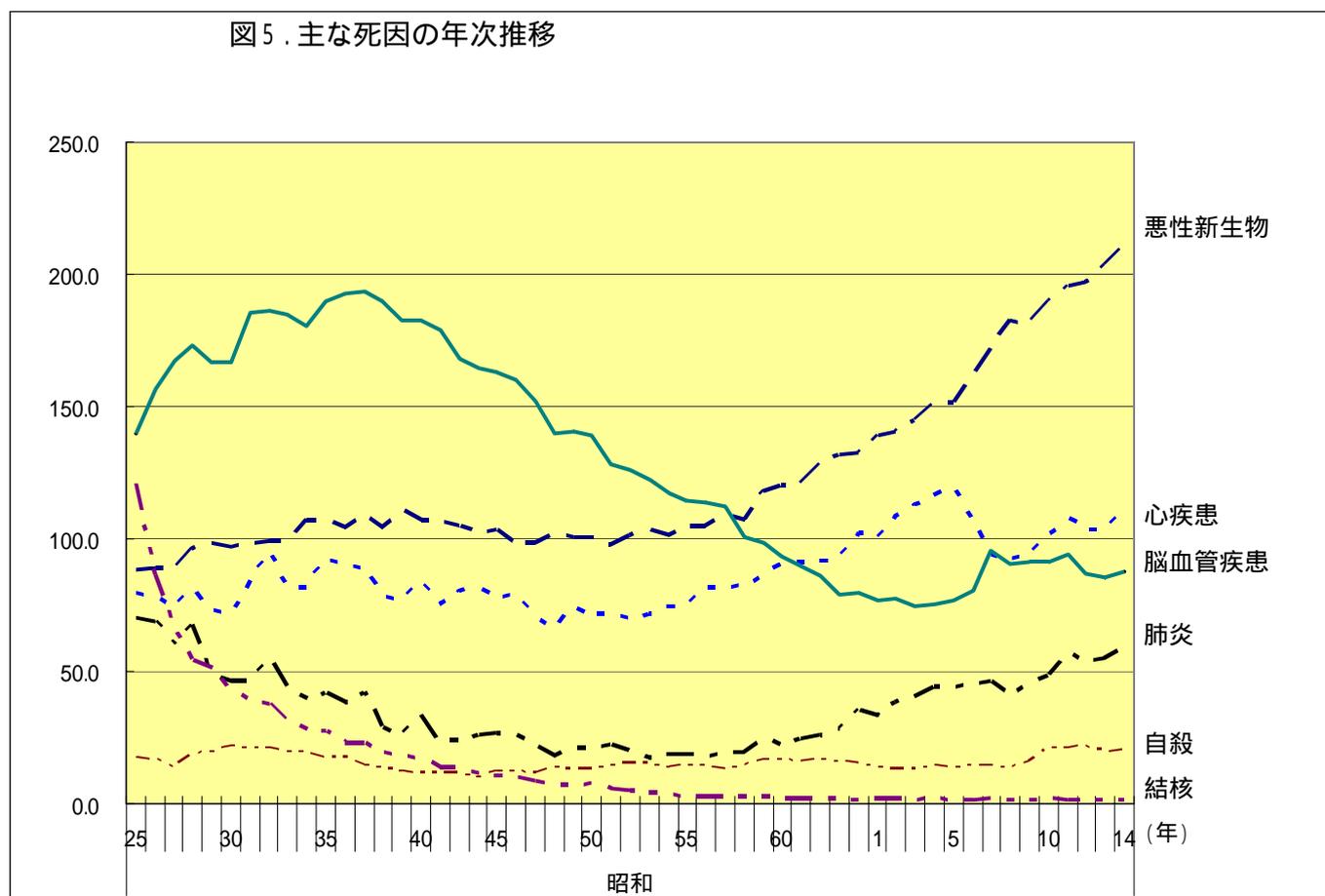


表7 主要死因別死亡数及び死亡率

年 齢 階 級		総 数	0～19歳	20～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全 死 亡		39,748	370	446	295	349	516	762
三大成人病		24,249	54	90	79	146	269	467
内 訳	悪性新生物	12,503	23	46	40	83	152	298
	心 疾 患	6,530	27	39	24	43	70	92
	脳血管疾患	5,216	4	5	15	20	47	77
全死亡に占める割合		61.0	14.6	20.2	26.8	41.8	52.1	61.3

50～54歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
人 1,668	人 2,096	人 2,864	人 3,783	人 4,670	人 5,391	人 5,791	人 5,652	人 5,095
1,108	1,435	2,033	2,753	3,260	3,478	3,497	3,159	2,421
730	993	1,375	1,763	2,025	1,809	1,539	1,099	528
208	257	395	539	688	915	1,032	1,144	1,057
170	185	263	451	547	754	926	916	836
% 66.4	% 68.5	% 71.0	% 72.8	% 69.8	% 64.5	% 60.4	% 55.9	% 47.5

表8 悪性新生物死亡の状況

	悪性新生物 死亡数	悪性新生物 死亡率 人口10万対	全死亡に対する 悪性新生物死亡 の割合(%)
昭和40年	2,900	107.3	14.7
45	3,283	97.5	15.6
50	4,063	97.9	18.7
55	4,974	105.0	21.7
60	6,216	120.7	25.0
61	6,680	128.0	26.2
62	6,994	131.8	27.4
63	7,152	132.3	26.3
平成元年	7,641	139.2	27.8
2	7,791	140.2	27.0
3	8,136	144.6	27.4
4	8,617	151.4	27.5
5	8,722	151.7	27.3
6	9,362	161.7	28.6
7	9,977	172.1	29.1
8	10,635	182.5	31.3
9	10,605	181.1	30.6
10	11,187	191.8	30.7
11	11,461	195.5	29.9
12	11,552	196.8	31.0
13	12,016	203.4	31.8
14	12,503	210.9	31.5

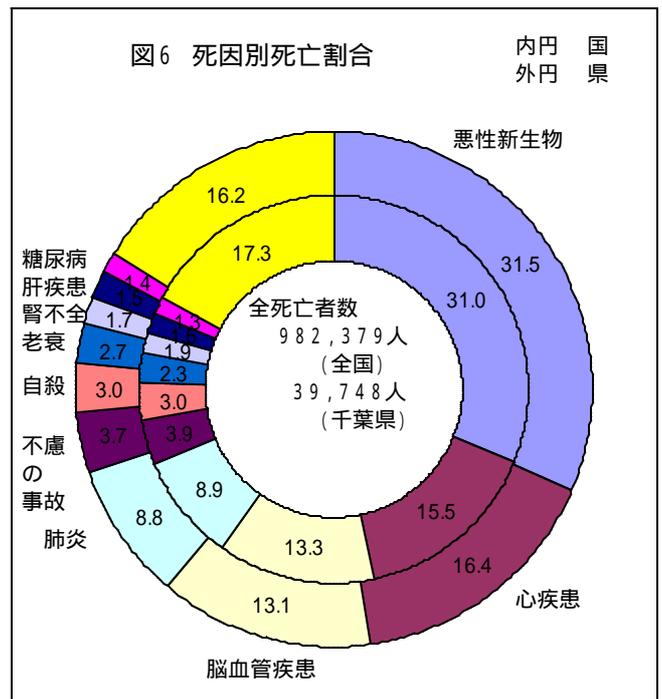


表9 年次別部位別悪性新生物死亡割合(百分率)

発生部位	55年	60年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
胃	33.4	28.2	21.1	20.7	20.7	20.4	19.7	18.8	18.4	18.3	17.6	17.5
気管・気管支及び肺	12.1	12.9	16.8	16.4	15.3	16.4	16.2	16.5	17.2	17.1	16.9	17.6
乳房	3.1	2.9	3.4	3.7	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.7	3.8	3.8
子宮	2.9	2.8	2.2	1.9	1.8	1.9	1.8	1.9	1.9	2.0	2.1	2.0
白血病	3.5	3.4	2.2	2.4	2.3	2.3	2.0	2.5	2.2	2.1	2.2	2.0
食道	3.7	3.4	4.2	3.4	3.6	3.3	4.3	3.7	4.0	3.7	4.0	4.2
肝	7.1	9.1	10.5	10.5	11.3	11.3	11.1	10.8	10.7	10.1	10.7	10.7
膵	4.4	5.3	6.0	5.6	6.1	5.7	6.0	5.8	6.1	6.4	6.2	5.8
直腸S状結腸移行部	4.3	4.2	3.9	4.6	4.1	4.3	4.9	4.3	4.5	4.6	4.4	4.3
その他	25.5	27.8	29.7	30.7	31.3	30.9	30.6	32.1	31.5	32.0	32.1	32.1

(3) 乳児死亡

生後1年未満の死亡を乳児死亡といい、通常、出生千に対する乳児死亡率で観察するが、特にこれを取りあげて観察の対象とするのは、乳児の生存は母体の健康状態・養育条件等の影響を強く受けるためである。

平成14年の乳児死亡率は2.8で、前年の3.0を下回った。

表10は保健所別の乳児死亡率の推移であり、表11は乳児死亡の主要死因別死亡率である。

表10 年次別保健所別乳児死亡率（出生千対）

保健所	55年	60年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
総数	7.2	4.8	4.5	3.9	3.6	3.3	3.7	3.6	3.0	3.2	3.0	2.8
千葉県	7.1	3.7	3.8	2.6	4.2	3.2	3.5	4.0	2.6	3.5	2.7	2.4
市川	7.3	4.1	3.5	4.2	3.7	2.1	3.1	4.4	3.1	3.7	2.1	3.5
松戸	5.6	3.9	4.4	4.1	3.0	2.2	2.7	3.9	2.4	3.8	3.9	3.4
野田	8.5	5.9	1.6	5.3	3.2	3.9	3.2	3.3	5.1	3.4	3.2	1.8
佐倉	8.4	4.4	3.8	5.4	4.7	3.7	3.4	3.1	3.5	4.9	2.4	4.2
佐原	7.9	4.0	4.5	5.0	3.5	4.5	・	・	・	・	・	・
銚子	10.9	8.7	4.7	2.2	5.4	1.6	・	・	・	・	・	・
八日市場	8.0	7.5	-	1.3	8.6	5.8	・	・	・	・	・	・
東金	6.3	3.1	6.1	5.6	3.7	2.9	・	・	・	・	・	・
茂原	3.8	5.7	3.9	6.0	2.9	3.7	-	5.4	3.2	1.6	4.9	3.2
勝浦	10.4	3.5	5.2	7.4	3.4	6.3	1.8	1.7	8.4	1.7	-	-
市原	7.8	4.7	4.1	3.0	3.7	5.3	3.40	3.9	4.4	3.1	4.8	3.2
木更津	7.7	4.8	3.2	6.0	4.4	4.4	5.1	5.1	3.6	1.7	1.1	1.1
館山	9.8	4.6	9.4	5.6	1.2	4.8	・	・	・	・	・	・
鴨川	15.4	7.2	-	3.2	-	-	・	・	・	・	・	・
船橋	6.6	6.3	6.2	2.7	3.2	3.0	3.6	3.3	2.7	2.4	3.0	2.2
松尾	6.9	5.1	4.5	1.4	1.4	4.0	・	・	・	・	・	・
柏	6.3	5.1	6.4	2.5	2.3	3.2	4.8	2.9	3.3	3.2	2.9	1.4
習志野	6.9	5.3	4.8	5.3	3.4	3.3	3.0	1.5	1.2	2.7	2.1	3.2
香取	・	・	・	・	・	・	8.20	4.0	4.0	4.1	1.7	3.5
海匝	・	・	・	・	・	・	3.6	4.2	2.6	3.2	5.7	5.7
山武	・	・	・	・	・	・	6.2	3.4	1.9	1.2	5.5	2.7
安房	・	・	・	・	・	・	7.5	2.8	1.0	1.0	4.2	2.8
全国	7.5	5.5	4.3	4.2	4.3	3.8	3.7	3.6	3.4	3.2	3.1	3.0

表11 年次別乳児死因簡単分類死亡率（出生1万対）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
昭和55年	出産時外傷、低酸素症、分娩仮死及びその他の呼吸器病態 21.2	先天性異常 17.8	詳細不明の未熟児 5.5	肺炎及び気管支炎 4.9	不慮の事故及び有害作用 3.2
60	先天性異常 16.0	出産時外傷、低酸素症、分娩仮死及びその他の呼吸器病態 12.8	肺炎及び気管支炎 2.3	詳細不明の未熟児 不慮の事故及び有害作用 2.0	
平成4年	先天性異常 14.5	出産時外傷、低酸素症、分娩仮死及びその他の呼吸器病態 8.1	不慮の事故及び有害作用 3.0	心疾患 2.8	敗血症（新生児敗血症を含む） 1.3
5	先天性異常 14.4	出産時外傷、低酸素症、分娩仮死及びその他の呼吸器病態 9.0	不慮の事故及び有害作用 2.6	心疾患 敗血症（新生児敗血症を含む） 2.3	
6	先天性異常 14.5	出産時外傷、低酸素症、分娩仮死及びその他の呼吸器病態 6.7	不慮の事故及び有害作用 2.3	敗血症（新生児敗血症を含む） 2.1	肺炎及び気管支炎 1.1
7	先天奇形，変形・染色体異常 15.6	乳幼児突然死症候群 5.7	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.2	不慮の事故 1.7	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 1.3
8	先天奇形，変形・染色体異常 13.9	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.3	乳幼児突然死症候群 3.6	肺炎 不慮の事故 1.6	
9	先天奇形，変形・染色体異常 13.7	乳幼児突然死症候群 4.4	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.2	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 2.4	周産期に特異的な感染症 心疾患 1.5
10	先天奇形，変形・染色体異常 11.6	乳幼児突然死症候群 3.6	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 2.4	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 2.0	不慮の事故 1.8
11	先天奇形，変形・染色体異常 12.0	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.3	乳幼児突然死症候群 不慮の事故 2.2		敗血症 1.1
12	先天奇形，変形・染色体異常 11.8	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 6.0	不慮の事故 1.8	心疾患 乳幼児突然死症候群 1.4	
13	先天奇形，変形・染色体異常 8.9	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 5.0	乳幼児突然死症候群 2.8	不慮の事故 1.8	心疾患 1.5
14	先天奇形，変形・染色体異常 11.2	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.4	乳幼児突然死症候群 2.2	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 1.6	不慮の事故 1.5

6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
心疾患 1.7	敗血症（新生児敗血症を含む） 1.4	髄膜炎 1.1	胃腸炎 悪性新生物 0.8	
敗血症（新生児敗血症を含む） 1.3	髄膜炎 心疾患 0.7		新生児の出血及び 新生児出血性疾患 その他の外因 0.5	
肺炎及び気管支炎 0.8	良性及び性質不詳の 新生物 0.6	その他の外因 0.4	胃腸炎 悪性新生物 詳細不明の未熟児 髄膜炎 0.2	
肺炎及び気管支炎 0.9	詳細不明の未熟児 0.6	新生児の出血及び新生児 出血性疾患 良性及び性質不詳の新生物 その他の外因		
心疾患 0.9	詳細不明の未熟児 0.5	悪性新生物 0.4	胃腸炎、髄膜炎 新生児の出血及び 新生児出血性疾患 その他の外因 0.2	
敗血症 心疾患 1.1		肺炎 0.7	代謝障害 周産期に特異的な感 染症 0.6	
胎児及び新生児の出 出血性障害及び血液 障害 0.9	心疾患 0.7	周産期に特異的な感 染症 0.5	代謝障害 0.4	
	脳血管疾患 不慮の事故 1.1		敗血症 0.9	肺炎 0.5
心疾患 出生時仮死 1.6		新生児の細菌性敗血症 1.1	敗血症 その他の周産期に発 生した病態 0.9	
髄膜炎 心疾患 周産期に特異的な感 染症 0.7			肺炎 胎児及び新生児の出 出血性障害及び血液 障害 0.6	
敗血症 0.9	胎児及び新生児の出 出血性障害及び血液 障害 0.5	悪性新生物 髄膜炎、肺炎 周産期に特異的な感 染症 0.4		
胎児及び新生児の出 出血性障害及び血液 障害 0.7	腸管感染症 脳血管疾患 胎児発育に関連する障 肺炎 0.6			
心疾患 1.3	肺炎 0.4			

表 1 2 死産率年次推移（出産千対）

(4) 死産

人口動態統計では「死産の届出に関する規程」により妊娠満 12 週（妊娠第 4 月）以後の死児の出産を死産として扱っている。これらの年次別推移が表 12 である。

なお、死産率は出産（出生 + 死産）千に対する率で表される。

死産のうち人工的処置を加えたものは人工死産としているが、人工死産の妊娠期間別割合は表 13 のとおりである。

	死産率	人工死産率	全死産に対する人口死産の構成比
昭和40年	66.5	19.1	0.287
45	51.0	12.5	0.246
50	41.9	8.6	0.206
55	38.4	8.4	0.220
60	38.1	14.7	0.386
平成4年	34.9	15.6	0.448
5	32.6	14.3	0.438
6	29.2	12.1	0.414
7	27.6	11.9	0.432
8	29.2	12.4	0.426
9	28.8	12.2	0.424
10	28.7	12.1	0.422
11	30.2	12.8	0.424
12	28.9	12.5	0.433
13	29.3	13.3	0.456
14	29.1	13.6	0.469

表13 人工死産の妊娠期間別割合年次推移（百分率）

	人工死産	第 4 月	第 5 月	第 6 月	第 7 月	第 8 月	第 9 月	第 10 月	第 11 月
昭和40年	100	9.3	28.2	34.2	20.5	3.6	1.4	2.8	-
45	100	15.9	36.5	29.8	15.3	1.2	0.4	0.9	-
50	100	20.7	35.6	30.6	11.5	0.9	0.3	0.4	-
	人工死産	12~15週	16~19週	20~23週	24~27週	28~31週	32~35週	36~39週	40週~
55	100	30.4	35.9	32.6	0.5	0.3	0.2	-	-
60	100	38.3	34.4	26.2	0.3	0.4	0.3	-	-
平成4年	100	43.6	37.7	18.5	-	0.2	-	-	-
5	100	41.0	40.9	18.0	0.1	-	-	-	-
6	100	45.3	40.1	14.2	-	0.1	0.1	0.1	-
7	100	40.7	38.1	20.9	-	0.3	-	-	-
8	100	39.9	41.3	18.6	0.3	-	-	-	-
9	100	48.3	35.2	16.4	-	-	-	-	-
10	100	47.7	36.9	14.9	0.1	0.3	-	-	-
11	100	45.0	38.7	16.1	-	0.2	-	-	-
12	100	44.0	40.0	15.7	0.1	0.1	-	-	-
13	100	45.8	37.0	17.2	-	-	-	-	-
14	100	48.0	36.0	16.0	-	-	-	-	-

(5) 周産期死亡

周産期死亡とは、妊娠満 22 週（平成 6 年までは満 28 週）以後の後期死産と生後 1 週未満の早期新生児死亡を合わせたものをいい、周産期死亡率は出産（出生 + 妊娠満 22 週以後の死産）千に対する死亡率で表さ（平成 6 年までは出生千対）、母子衛生上の重要な指標となっている。

表 14 は年次別周産期死亡率と周産期死亡の構成割合であるが、周産期死亡率は平成 7 年以降おおむね横ばいで推移している。

また、保健所別の周産期死亡率の推移は表 15 のとおりである。

表 1 4 周産期死亡率及び周産期死亡構成割合年次推移

	周産期死亡率	周産期死亡構成割合	
		後期死産	早期新生児死亡
昭和55年	11.8	70.3	29.7
60	8.7	74.4	25.6
平成4年	5.0	69.7	30.3
5	5.6	69.3	30.7
6	5.2	69.6	30.4
7	6.7	85.0	15.0
8	7.0	82.5	17.5
9	6.9	81.6	18.4
10	6.7	83.6	16.4
11	6.6	84.5	15.5
12	7.0	82.5	17.5
13	5.8	79.4	20.6
14	6.1	81.3	18.7

表 1 5 保健所別周産期死亡率年次推移

保健所	55年	60年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
総 数	11.8	8.7	5.6	5.2	6.7	7.0	6.9	6.7	6.6	7.0	5.8	6.1
千葉市	10.1	9.4	5.1	4.3	6.8	7.4	7.6	6.9	5.6	6.6	5.2	6.7
市川	13.0	5.8	5.4	4.5	5.4	5.0	5.5	9.0	6.7	5.5	4.5	5.3
松戸	9.4	6.4	7.4	6.2	8.1	6.6	5.7	5.7	6.5	7.2	5.9	6.5
野田	14.1	7.4	6.3	5.3	8.7	7.7	5.6	4.9	12.6	9.3	8.8	7.9
佐倉	14.5	8.9	3.8	6.8	5.4	5.8	5.5	6.8	8.1	7.5	4.0	4.7
銚子	13.3	14.6	5.3	6.7	8.8	4.5	・	・	・	・	・	・
八日市場	16.1	13.3	7.0	4.5	4.6	11.2	・	・	・	・	・	・
東金	17.1	8.6	3.0	4.0	9.9	7.2	・	・	・	・	・	・
茂原	16.3	10.4	3.0	2.8	7.3	6.6	・	・	・	・	・	・
勝浦	15.2	8.5	6.3	9.7	8.1	5.8	4.5	7.7	8.7	4.8	9.0	8.8
市原	16.1	16.4	7.0	8.8	6.7	11.0	10.4	3.4	15.0	13.5	5.6	4.0
木更津	13.6	11.7	6.4	3.7	11.5	10.1	4.80	6.9	9.1	8.3	7.2	8.7
館山	11.3	9.5	6.1	6.9	7.0	8.0	8.9	6.5	6.4	8.0	5.0	3.6
鴨川	12.8	3.7	8.2	6.7	3.6	9.5	・	・	・	・	・	・
船橋	23.1	16.8	6.3	3.2	9.6	3.5	・	・	・	・	・	・
松尾	10.2	7.3	6.2	3.8	5.3	6.1	7.6	5.8	4.1	6.6	5.1	6.3
柏	20.6	10.2	4.5	9.5	8.1	4.0	・	・	・	・	・	・
習志野	8.9	8.1	5.7	4.4	6.1	8.2	8.6	5.3	6.7	6.1	6.5	6.2
香取	11.4	11.1	4.8	6.0	6.7	7.3	5.2	8.1	7.1	8.2	5.7	4.1
海浜	・	・	・	・	・	・	11.1	7.8	8.0	4.9	6.8	6.2
山武	・	・	・	・	・	・	8.4	8.4	5.3	10.6	10.7	8.9
安房	・	・	・	・	・	・	8.9	5.1	6.1	7.3	7.9	8.7
全 国	・	・	・	・	・	・	2.8	6.6	2.9	5.9	6.2	6.5
全 国	20.2	15.4	7.7	7.5	7.0	6.7	6.4	6.2	6.0	5.8	5.5	5.5

(6) 婚姻と離婚

婚姻率は昭和 60 年代前半から微増傾向にあったが、ここ数年増減を繰り返しており平成 14 年は 6.4 となった。

また、平成 14 年の平均初婚年齢（届時の年齢）は表 17 のとおり、夫は 29.5 歳、妻は 27.5 歳である。

一方、離婚率は昭和 58 年の 1.45 をピークに一時減少し、昭和 62,63 年に 1.22 となったが、平成元年から再び増加に転じ平成 14 年は 2.30 で過去最高であった。

図 7 は離婚した夫婦の同居期間を示したものであり、15 年以上同居した夫婦の離婚は 23.7 % となっている。

また、離婚件数のうち、親権を行う子を持つ夫婦の割合は、54.0 % である。

表 1 6 婚姻率及び離婚率の年次推移(人口千対)

	婚 姻 率	離 婚 率
昭和45年	10.7	0.78
50	8.9	0.95
55	6.7	1.15
60	5.9	1.33
平成4年	6.4	1.49
5	6.8	1.54
6	6.6	1.61
7	6.8	1.68
8	6.7	1.71
9	6.4	1.87
10	6.5	1.98
11	6.4	2.07
12	6.7	2.16
13	6.7	2.24
14	6.4	2.30

表17 平均初婚年齢年次推移

	夫の年齢	妻の年齢
昭和40年	27.4	24.6
45	27.1	24.4
50	27.3	24.9
55	28.1	25.5
60	28.5	25.7
平成4年	28.6	26.1
5	28.6	26.2
6	28.6	26.3
7	28.7	26.5
8	28.8	26.6
9	28.9	26.7
10	28.9	26.9
11	29.0	27.0
12	29.2	27.2
13	29.4	27.4
14	29.5	27.5

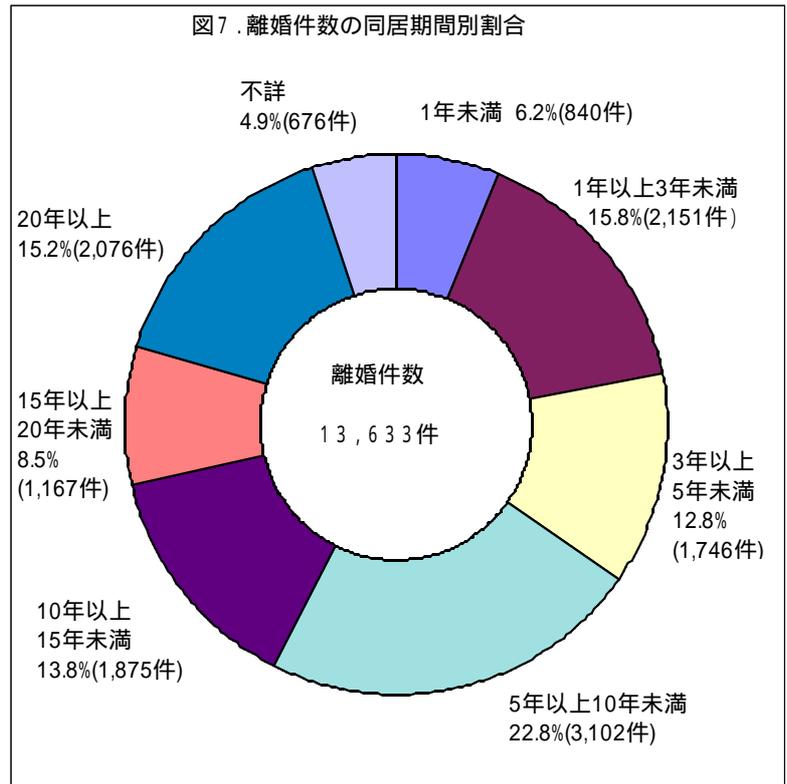


表18 夫婦が親権を行わなければならない子の数別離婚件数

離婚の種類	夫婦が親権を行わなければならない子の数										計
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人以上	
協議	5,912	3,099	2,624	671	111	16	2	4	0	0	12,439
調停	297	431	268	77	4	1	0	0	0	0	1,078
審判	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
判決	57	26	18	12	1	0	0	0	0	0	114
計	6,266	3,556	2,910	762	116	17	2	4	0	0	13,633
構成割合	46.0	26.1	21.3	5.6	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0	-	

構成割合は、四捨五入により100%にならない。